石巻専修大学

●「石巻専修大学」ホームページ● http://www.isenshu-u.ac.jp

代表電話番号 0225(22)7711
入試専用FAX 0225(22)7809

盛況 08石鳳祭

テーマは「響―ひびき―」

▶ メーンステージでのパフォーマンスに歓声があがった

◀ コンピュータ研究会のプログラムしたゲームに興味津々

10月11、12の両日、「響―ひびき―」をテーマに、創立20年記念「2008石鳳祭」が開催された。石鳳祭実行委員によるメーンステージでのゲーム企画をはじめ、各サークルによる模擬店、市民によるフリーマーケットなど、趣向を凝らしたイベントが行われ、キャンパスは終日大いにぎわった。

並行して創立20年記念事業、オープンキャンパス、ホームカミンデーなども催され、例年よりも多く、延べ約3万人もの来場者が詰め掛けた。

▶ サークルによる模擬店もにぎわう

海の生物に触れて学ぶ

2、3年次生が臨海実習

理工学部生物生産工学科の2、3年次生対象の臨海実習が9月に南三陸町自然環境活用センターで相次いで行われ、学生たちは海の生物生産についての理解を深めた。

3年次生対象の臨海実習Ⅲは太田尚志准教授の指導で、11日から3日間行われ、66人の学生が参加した。同センターで動物プランクトンの行動生態の観察や寄生虫の観察を行った。また、波伝谷港から3艘の船に分乗して海洋観測を実施。3班に分かれ、各班がCTD、プランクトンネット採集、採泥、バンドン各層採水、透明度観測を担当した。

2年次生対象の臨海実習Ⅱは鈴木英勝助教の指導の下、17日から3日間行われた。53人の学生が参加。①魚介類の生産から、食卓に上るまで、どのような経路をたどるか②海の生物の神秘に迫る③海に親しもう。この3つのテーマに沿って、志津川町の志津川魚市場、製氷冷凍工場の見学、ホタテガイの解剖とエラの繊毛運動の観察、カッター訓練などが行われ、充実した3日間の実習を終えた。

▲ 試料採集の様子

▲ プランクトンの生態観察や海水の透明度の観測などを行った

創立20年記念事業

▶ 鏡開きを行う右から土井石巻市長、小林前石巻専修大学長、日髙理事長、坂田学長、甘竹校友会長

功労者ら招き祝賀会

▶ アトラクションも盛大に行われた

創立20年を記念して10月11日、石巻グランドホテルで祝賀会が催された。

日髙義博学校法人専修大学理事長のあいさつに続き、大学誘致・開学功労者8氏、大学運営功労者4氏に対し感謝状と記念品が贈呈された。来賓の土井喜美夫石巻市長から祝辞が述べられた後、鏡開きを執り行った。その後、甘竹秀雄専修大学校友会長の力強い発声により乾杯がなされた。

続いて、鈴木孝石巻専修大学育友会長から学生生活の充実を図ってもらうよう目録が坂田学長に贈呈され、アトラクションに移った。開学前後のビデオ上映、「石巻市無形文化財・はねこ踊り」が紹介され、祝賀会に花を添えた。

最後に坂田隆石巻専修大学長が閉会のあいさつを述べて終了となった。

張祖恩氏

日韓水環境シンポ、

大仲英巳氏

燃料電池で講演会

創立20年記念事業として10月10日から12日までの3日間、シンポジウムや講演会、図書館展示など、地元石巻の「知の拠点」として多くの情報を発信した。

10日には日本水環境学会主催の「第17回日韓水環境シンポジウム」が開かれた。台湾の元環境大臣・張祖恩氏が「持続化の未来に向けて」と題し健全な水環境創造を目指した台湾の環境問題への取り組みを語った。

翌11日には、記念講演として、「燃料電池車の最近の開発状況」をテーマにトヨタ自動車㈱FC技術部主査の大仲英巳氏が講演。世界が抱える燃料問題について解説し、未来の車として期待される水素を利用した燃料電池自動車の最新の開発状況、普及に向けた課題を提起した。

（そのほかの記念事業については次号に掲載します）

◀ 水環境シンポで台湾の取り組みについて語る張氏

◀ 大仲氏の講演に多くの人が詰めかけた

インターンシップ発表会

貴重な就業体験を披露

02年度から全学的に実施している企業や行政機関等での就業体験「インターンシップ」の08年度発表会が10月10日開かれた。

今年度の体験者31人のうち、この日の発表者は理工学部5人、経営学部13人の計18人ですべて3年次生。発表は3回に分け、理工学部が1時間、経営学部が1時間×2回の合計3時間で展開。発表者は準備2分・発表5分の持ち時間の中で、それぞれが体験した貴重な就業体験を報告した。発表者は、アルバイトとは違う就業体験は、就職活動に向けたステップとして、大いに役立つとの感想を述べていた。聴講していた学生たちも自分の適性を知るための貴重な機会として、真剣に耳を傾けていた。

▶ 就業体験について発表する学生

育友会地方懇談会を開催

石巻専修大学育友会（鈴木孝育友会長）の地方懇談会（石巻会場）が石鳳祭初日にあたる10月11日、本館2階会議室で、49組72人が参加して開催された。

鈴木会長の開会あいさつの後、大谷尚文育友会主任（理工学部教授）が「前期の成績通知配布にあたり」と題してガイダンス。会員ご子女に送付している修学状況通知書等の資料をもとに、試験、レポート、出席状況などを考慮した総合評価による成績評価のしくみやサークル活動、アルバイトなどのキャンパスライフのあらましなど、学生の生活状況について例をあげながら説明した。

その後、出席した会員の自己紹介の後、個別面談が行われた。個別面談では、ご子女の学業成績や学生生活の様子、就職状況などの相談に担当教員が対応。個別面談の待ち時間を利用して、会員同士が情報交換を行うなどアットホームな雰囲気の中で会が終了した。

次回は10月26日（日）に仙台会場と北上会場で開催される。詳しくは、ホームページまたは育友会事務室まで。

▲ あいさつする鈴木会長

SWO、石巻小・市内で演奏

▲ ショッピングセンターでは買い物に訪れた市民に演奏を披露

シンフォニック・ウインド・オーケストラ（SWO、田代渉主将・経営3）は9月19日、石巻市立石巻小学校（福原俊幸校長）で開かれた音楽鑑賞教室で吹奏楽の演奏を披露した。同校の器楽合奏団とも協演し、子供たちはSWOの迫力のある演奏に聴き入っていた。

これは子供たちに日ごろできない感動を体感してもらうことを目的に開かれており、SWOの参加は5回目。行進曲「アルセナール」（ヤン・ヴァン・デルロースト作曲）をはじめ、協演では「宙船（そらふね）」「VACATION」を演奏。アンコール曲「崖の上のポニョ」では、手拍子と歌声が会場いっぱいに鳴り響いた。

また、同27日にはイオン石巻ショッピングセンターで「2008プレ石鳳祭ふれあいフェスティバル」と銘打って、買い物に訪れた市民たちを前に演奏を披露した。